



當流はなひ大全

へ 5  
1607



門一利一  
番 1607  
巻



い 常流よりい大全



穀舟 為名小阿比乃字六  
好子 大築梅舟又同一  
かゝるは是より多し  
三節 毎どのせと  
ありと目か絶よあり

伴勢の神 名おの伴勢 搦いせ向  
物いせ 送伴勢 解亦乃うわりの  
あともあがりよ一あまてる神と  
とくい名およ阿比乃字六  
あまてる神とおの伴勢 出と  
かゝるは是より多し  
あまてる神 名およ  
今ま名およ阿比乃字六  
の神 伴 意あり 仏といの  
あゝど但し 句神よ  
乃いのり 固あり

乃いのり 固あり  
乃いのり 固あり  
乃いのり 固あり

ては新交無流よかりりて停粉か  
りて一つあり

岩一産ふ二いり一岩座一かやうの

室の抱りねとてく傘ふ岩一

いり一又喜岩おとく傘ふとて

一石も一せたとて傘ふとて一鉄炮

乃石火夫岩座の石山ふも二の西

岩指山おまわらば

石火夫鉄炮おねとてくあべ一

いり一とて岩門あもて生れふ二白

神祇あり八月十又歳八歳の祭

書記を中ふ美談りる海一あ

完勝玉種りちり傘ふいりる紙

とて岩門放生会のみやふて放生

去れ放生川とて色出とてなうす

放生会とて白のりるねとてく

とてねとて物とて岩門とてあべ一

とてとて神祇あり神祭あり

排とてせらるること一竹又曰一

岩門又黒紋の岩史の岩おの書取よ

あべ一曰のりるねとてくあべ一

岩つとて岩座ふ二白あり傘一とて

春とての字あれたる岩門の也一

岩門風座ふも風神とて二白岩座

云字ふ三白の岩の子の面紙岩座

風座ふも他代とて傳ふこと

岩の子岩座のふとてく人傳とて岩座

打とて岩座の子同あ

岩とて岩座のふとてく岩座の子に

面紙岩座ふ傘ふ出岩とて岩座のふ

あべとて岩座とて岩座のふとてく

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

とて

岩屋 舟より打うせしむ

石小宗 西宮姫 其双六の石の石の石

石小宗 其破七の石の石

板橋 神祇あり

此只二名あり二此小宗河三三

小池二名あり一此池切池池池の

尾堀池の傍にあり名あり名あり

池田炭 焼まじりて名あり

一名字八一材敷二町敷ありあり

一又八一の石とありありありあり

一七の石と云い同れありありあり

一三ありありありありありあり

一門一敷ありありありありありあり

一破只二名あり二傘小宗あり一以上

市只二名あり二市の石あり一以上

舟小宗あり二傘小宗あり一以上

舟の石ありありありありありあり

一勝ありありありありありあり

一入の字ありの字二の姫あり

一文字二の字ありの字二の姫あり

一とけあり入備ありの字あり

一今ありありありありありあり

一今ありありありありありあり



あべ一坊の字を尋ねて一西と婦人

あふれ神う物ふさふ雑あり

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

あふれう急物のうらなと婦人

傘のまはる風一ふよふ  
よふのありけり

初の日も雨のまはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

雨乃まはる風一ふよふ  
よふのありけり

くぬぐり野菜あぐ入りあぐ白なり  
あぐりあぐあぐあぐ

鼻よ白あぐあぐ付くあぐあぐ  
汁あぐあぐあぐあぐあぐあぐ

よかりあぐあぐあぐ  
法所坊まらあぐあぐあぐあぐ

人備ありあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ

あぐあぐあぐあぐあぐあぐ  
あぐあぐあぐあぐあぐあぐあぐ



おれよ二つさるし

結一おき一もれんも二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれよ二つさるし

おれは又二もさういふもれと  
佛おき置かたふ西と屋  
雲おれはあまふれど傘おれと

牡丹あつて草花目草あつてなちひ  
うらあつてふ二あつて

傘おふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

刊記やふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

細江名ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

色の字は色は外あり

下は一ありふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

魚うんはふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

おれはあつてふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

との的はあつてふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

年は二移れ二移れ二移れ二移れ  
ふふふふふふふふふふふふふ

年は二移れ二移れ二移れ二移れ  
ふふふふふふふふふふふふふ

年は二移れ二移れ二移れ二移れ  
ふふふふふふふふふふふふふ

を里小登 居不 居不 傘小 掛列  
乃らちふる居不 二句あり

戸八は外不 七句あり 七句あり 又三句あり  
戸不 上戸下戸 二句あり

戸とあちの 居れわらう 二句あり  
とさう 居不 二句あり

戸とさくく 戸とさくく 七句あり 七句あり 七句あり  
戸不 意門とさく 七句あり 七句あり 七句あり

居不 居不 又三句あり  
二句あり

管屋 居不 あり 又三句あり 七句あり  
舟乃 二句あり 又三句あり

管とく 居不 あり 七句あり  
友二人 備あり 七句あり 七句あり 七句あり

友あり 八の 朋友と 居不 あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

友 七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
又二句あり 七句あり 七句あり 七句あり

は 川に 居不 あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

七句あり 七句あり 七句あり 七句あり  
七句あり 七句あり 七句あり 七句あり

名指 名指字指の字はふ二句と  
名指のく不指の字。かりきあひしと  
付白さしふ

名指のく名指の字はふ二句と  
とりのく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と

名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と  
名指のく名指の字はふ二句と



ちとまりニ白くあはれかたうつらね  
あざれまふんのあか目ト  
あんなつんねん乃ふかたうらうのあ  
あんなあんなあめあかまうらあ  
を

● 是只二名あよ二傘子あや二三人の  
名字あはれまて色二のうらこ

小笠二名あよ二小笠あ所あのの口こ  
あよあよあよ一傘小小野三

人乃名あもあのうらあり  
を近二よりとより二傘あよらあ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ

あよあよあよあよあよあよあよ  
あよあよあよあよあよあよあよ







新井 藤小堀と浦中もつたて  
小堀小堀を藤小堀と徳の山并藤  
神伝とつてそそり新伝尺貫たれ  
二句とつて

新井 新井とそそり傘小井一  
又里とつて一又かつてそのうちよ  
今一以上三句あり

杜家 只今藤小堀と又そそり  
首途より乃字七句短出のそそり  
二句新井とあつて

かかれ藤小堀一藤小堀と又そそり  
かかれ藤小堀と又そそり  
世れつてとあつて

新井 藤小堀と又そそり  
らそそり藤小堀とあつて

門 藤小堀と又そそり  
よんとそそり藤小堀とあつて  
かそそり藤小堀とあつて  
て一とそそり藤小堀とあつて

門 藤小堀と又そそり  
かり藤小堀とあつて  
藤小堀とあつて

秋 藤小堀とあつて  
門 藤小堀とあつて

藤小堀とあつて  
あつて藤小堀とあつて

藤小堀とあつて  
かそそり藤小堀とあつて

藤小堀とあつて  
今藤小堀とあつて

藤小堀とあつて  
上藤小堀とあつて

藤小堀とあつて  
る藤小堀とあつて

藤小堀とあつて  
今藤小堀とあつて



あかりのてんまふりーいれおれおれ  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん

あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん  
あふちの物さーいん



既よむ二句短促句極みうづべ  
 一糸只二糸小二傘小只二糸小一  
 秋の陽うけ戸のあつた付白汁と短  
 去ふまておれより一うづべ  
 又うづべよあつた  
 うづべまゝまゝ傘ふた今借交の也  
 只まゝのまゝおれとてうづべ  
 うづべ二燈を二つおれ  
 世のまゝとて一うづべ  
 あり秋のまゝとておれとて二  
 丸

大星 秋紙あり傘と案をうづべ  
 おれ一糸只一糸の物あつた  
 うづべ一糸傘いり西と短傘小若紙  
 短傘とてうづべ

竹ふらひらあつたうづべと毛と短傘  
 竹のうづべあつた  
 うづべ二燈二傘小只二糸小一又まゝと三  
 うづべ八かたとてうづべ八のうづべ

竹ふら竹只短竹小毛竹と短傘  
 玉八之傘小玉只短傘とて又一糸とみ  
 玉一糸玉の字二短傘別小一字を  
 只只二糸短二傘一糸二糸短二糸の  
 戸糸短二糸と戸糸のうづべ糸の戸  
 小戸糸七短傘小糸の戸糸短傘  
 短傘糸のうづべと山糸糸短傘二糸

竹よ短傘本おれとてうづべ  
 竹小短傘二短傘竹小毛の三糸  
 竹小川竹三糸竹小糸糸二糸  
 既只二糸短二糸の短傘糸の糸  
 裏糸糸糸

既 山糸糸短傘川糸糸短傘と  
 竹の糸 秋紙糸糸糸糸糸糸糸  
 竹と糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 堂二糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

既 只一糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 翻 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 既 一糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

廿夕 秋分の月日 二日 極月日 あり  
いさひのくち 秋分 あり

七夕 一七 七 夕 あり 一 ね せ ぐ  
ふ べ 一 七 夕 あり 二 日 極 傘 あり  
七 夕 あり 天 の 川 あり 極

た 多 門 あり 田 丸 あり あり あり  
田 丸 田 丸 あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり

田 丸 あり あり あり あり あり あり  
田 丸 あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり

玉 小 木 玉 珠 あり 七 日 極 傘 あり 玉 小 木  
玉 小 木 あり あり あり あり あり あり

あ け とも 命 あり 西 山 極 傘 あり 命 あり あり  
二 日 極 傘 あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり

玉 小 木 二 玉 小 一 命 あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり

田 小 生 田 田 あり 田 丸 あり あり あり あり  
田 小 苗 代 あり あり あり あり あり あり  
田 小 丸 あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり  
あり あり あり あり あり あり あり あり









秋入あひのひまひま月日にむ  
とび月がまも秋分あはれ  
病のつらきも傘小傘季ふられ  
は三句をあり

月小傘はびまひて三句目に新田の  
脚踏一差の傘小傘あてふまへ  
月待望びむと六折紙あり

月小傘 寄るよのりあり  
扇ふげと燈 越地ふささず  
洋只二名所ニ題は洋のつり  
あま川奥はあとのつりふ娘  
妻よ 妹うらむまへ

傘小傘は洋のつり又難波と斗  
あまへんぞれ糸あてふまへ  
さくさくまへ 洋はふ大津難波  
洋の紙の字まへ矢時奥はふら  
洋ふささずと云候より一四字  
かれは是も三句をあり

病小一川とさく又一あまへ  
傘よまへ病あてふまへ  
らん病あまへ川のうらあり  
病は林一柱あまへ病の葉難波  
はさく一 病はあまへ病はさく  
のり小一傘あまへ病はさく  
おれあまへ病の字まへまへ

さくさく 天急茶たまへ  
翅小も羽田のまへ三句短傘よ  
白練とさく翅二あり

常乃とり火 秋分小傘と傘小  
常の字は又一川一若ふまへまへ  
常あててと云ては秋分あり  
はさくまへまへまへまへ  
つらありや 折さくまへまへ

かきまへ三句をあり  
つま木 植地小傘と傘小折さく  
短木の字小三句まへまへまへ  
短はまへまへまへまへまへ  
まへ一書戸一書あまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ

まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ

まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ  
まへまへまへまへまへまへ

妻ふまけうらかり西と居

はて只ニ恙又一とびよ一

使入備お姫ど為大あまの使とせし

とあれが今に使只ニ恙又一とびよ

つひ共法つひかたれ内よ一とびよ

壺器成りく三掛つが相作が

かいつが未はひかあり

はがた雑之れとびよひていふ之後

向ふへももまふ用傘お括ニ

はがたれこれえくとくあり

つまむに只ニ恙又一

つあろニえづて入おとくと又た下

つか乃字三とびよか三の外とびよ

色おとくうとく

はがたれとまをれ字といまどやりと也

つかりたむむつう守おやとと

怒おこり去かりつう守ニえづて

考お二と林つこのえれとるがどい

ね

子日子の年又えづて傘に括物三百

短およお紙と居付句いお若

祢世 祢祢之 人備之

念者 念あり 人備之

寝乃字曰ぬるれ少つ給并おどら

以外之寝乃字小面とくとく可也

多歎の移る七句短傘はあんとと

よとて二つと寝よぬる国眠る

七句短傘おれぬる又の外小とと平て

乃ぬると名れぬるととてりら

扇おし扇火扇戸扇よけあり

よかりていふとら

園よ わらぬるは七句短傘は園ニあり

眠よ 起す 寝よ 二あり

寝名二虫二獣二眠二回二あり

振岩紙垣とぬる板の字と垣と

とぬると陰短傘の三垣とぬる

帯に考ひく三三

猶一ふびのうらなひがさへくみふ年  
新ひかりなかり秋のうらなひ  
秋の糸秋七夕なまはれはなす  
な

● な  
波の家 海也し秋し傘お波なまこ  
難波お波のなまこりす

若波 尾花の波なまこりす  
かきれなまこりす

遠二離二傘お法三内二名おはる  
黄代 妻こらおはる二句  
かきれ 妻あり又句をこ

波の花おきど花おこるうらなひり  
おくれい花おまきおはれど花の  
おぬのうらなひり

波の家 秋しありゆききしよ  
波の雨なまこりゆきお二句  
傘よ一産に二句

かこそのお笑 山影あり  
難波の恨も ありに二句  
波の神のうらなひり

おの神 神祇お恨と神の字お  
二句 傘おお神二句 雨のうらなひり  
おまきとちへーおのうらなひり

どく云句いなる神の妻おまき  
おの神 流およそへ下は桂也二句  
傘おおの神おはるらんかおは

おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句

おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句

おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句

おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句

おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句  
おの神 流およそへ下は桂也二句



傘よ成のま三句を

かろんかろん付の成さし

あつとあれ下のあつとさうさ

い付のさうさうさうさ

あしありあつん七句さ

あれやあしあつんありの西

とさうさうさうさうさ

いあつんさうさうさうさ

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

一、名取と云一、流し人の家の電と云も  
村居と云ふは村苗根村かぶら  
急な村の字も二、白梅、傘、村  
二、胸と云ふ二、白梅、傘、村

近よ白の二、白梅、傘、村  
ひらひらと云ふは白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村

ひらひらのに、白梅、傘、村  
ひらひらのに、白梅、傘、村













魁一と云ふ一尾小色ゆりてつら  
おとほゆるの心さゆの細き物と  
もおとほゆる

海系三尾小の尾系二つらむとく  
おとほゆるを冬と松の心とを  
神らつね系をいふら秋なり

親一と云ふ一尾生れ又あべ  
おとほゆると云ふ人傳ふあつて  
大井川よむせれと云ふ

尾系尾の字花乃字は二句と  
傘尾花尾の字は二句と  
おとほゆると云ふ傘花尾三句と

秋一と云ふ又二もあべ傘  
秋一と云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
秋一と云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の  
おとほゆると云ふ秋と云ふ一と云ふ秋の

つがび 林は月日れりふえて二五

一がら打らるるまどつがびは

及れねおえつがびは

帯の結びはふし傘に帯はふし又帯は

乃月結わさるるまどつがび

帯のう月結ふ帯は二句

帯のふおれさるるまどつがび下の

ふし中にとるるまどつがび下の

又結ふ 月日卯日三結の帯は

帯の字やふさくまどつがび又帯は

ふさくまどつがび帯は列七句

帯は帯のう月結わさるるまどつがび

あつと帯は帯は帯は帯は帯は

帯は帯は帯は帯は帯は帯は

帯は帯は帯は帯は帯は帯は

乃帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

帯は帯の帯は帯は帯は帯は

掃二くげ掃くくひのり

又まへーみるげいふ

水鏡 なるかかある

白れけとく二五

然只一態まくあ

く一掃くあわ

くわび生む

くわいぞあ

車二法の車一車一

車るぬく

ちあま車あび車

ホい裏あ

善い夕三句短

二句夕三句二句

去秋の善い夕

下の子二句

食の字今又生

口よ吸くあ

まく空あ

花一去花一

星ありの字

花一花

官位人

波のあ

物子

輪一又

たのしみ

掃二くげ掃くくひのり

又まへーみるげいふ

水鏡 なるかかある

白れけとく二五

然只一態まくあ

く一掃くあわ

くわび生む

くわいぞあ

車二法の車一車一

車るぬく

ちあま車あび車

ホい裏あ

善い夕三句短

二句夕三句二句

去秋の善い夕

下の子二句

食の字今又生

口よ吸くあ

まく空あ

花一去花一

星ありの字

花一花

官位人

波のあ

物子

輪一又





おみえーいあれやうりあのおら  
りるまじ日西あもあー  
を於一やうと母又あー

屋ニる屋ニ白煙 屋のまらう  
あを板敷をあまの煙のド  
西儀之とく八の葉を酒を梅を京  
をあれ梅あけ織あけら屋又定  
あけまると葉屋のあ七白煙く

日西あもあ屋傘ニ屋らうく  
云くくあも四一のあくとああ  
べーをあもあ七白煙あやうあ  
まあああもあああああ

夫云くく二白の年の夫又あー  
矢ニう西儀あ年の夫日あ  
流痛る神祇ころ約七白うニ白  
園にくう七白煙  
煙子あ力長刀あああ  
煙一煙梅煙んああうらあ  
煙とくぐひ又ああ

山あーあああ  
やうくとあああああ  
あああああああ  
ああーあああああ

●ま  
やうくとあああ

松よ子日ニ白き  
松の門 松垣人あよあ  
松風ニ松小風とむとく又ニあり  
松風村あああああ

松の煙 竹ああああ  
松のあああああ  
松よ海松 和布たああ  
松のあああああ  
みりりああああ

松草梅あ松の字ああ  
松んくく松のくく焼くく  
とあああああ  
松のりああああ

桂木乃字子孫桂の中木乃字乃  
過桂のやいふに桂の孫桂の孫  
孫生れうお草のまは二百年のまは  
西とく付らもあは

鞠一子まり一

町 吾亦よりいど町をいあはさ

乃町くの名居下町

枕のみは海どりらびおかし枕を子

急ゆり書物の名おしおは

唐のまは日急は二百年

籾一音のまは一ねとくま

あがれは七白さふ

あまうと人梅ゆり男お七り

急二すし三戸七白さふ西か

六白とりり傘三急三戸二白

眉れおより地お北と急の急と傘

眉れお本急し眉れお急と急

急と急何急お急と急急急

急の急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

急急急急急急急急急急急

々よは今の事と知れぬ事も因か

下知の河の事と知れぬ事も因か

云わふんよと知れぬ事も因か

々乃こよひと知れぬ事も因か

ば夜の河今も知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

々づりふと知れぬ事も因か

あつたよりの人二百姫

あつた食をてい教傷の心あつたを

ひくろとてはなを傷れ打部少用

持とて一傘ふた食を古枕をて

ひくろの長船弁のたをて一も

乃ると飲く白甲ふたをて一も

下の死人の枕食をてをて一も

や他を傷れをてをて一も

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

斗を和らぎてさうにく西極の  
文房文の何ふ小瓶と傘文の字を  
書きて二又秋文の年やうに二うま  
ふくらにふくら二句極

ふと和らぎてさうにく西極の  
み 無三極ニふ字一ふ字二ふ字三ふ  
と屋中事や外ふふふふふふふふ

ゆい熱のふふふふふふふふふふ  
一極ニふ字三ふ字三の内之極ふ  
てと熱中くもふふ外ふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

権祝 神紙あり

ふ乃月又春に秋ふおれどふ言

月うへふふさふ

ふ乃秋ふ乃おれどぬまれりてふ

又とどあふふおれどふ乃のサ

うううう用持とぶ

ふの花 正ねありうあふ二白

ふの松ふ乃おれどゆのふのふ用

ふのふ乃秋ふ乃おれどふ乃のふ

ふ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ふのふ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

子二 乃秋の子二卵のふ又二

子二 生れの子二卵のふ又二

傘二子三竹の子三竹の子三竹

傘二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹

子二子三竹の子三竹の子三竹



こがくは是乃字をいふなり

村のむらりとは

昆布 へんあつはあき三徳と

くま川 ぬきぬきと水七の徳

こころのむらりとは

しんがらぬの字を徳教と云

来 へんあつはあき

くま川 ぬきぬきと水七の徳

小の徳なり秋の徳なりぬきぬき

徳の字をいふは徳なり

徳の字をいふは徳なり

ふまふふふふふふふふ

徳の山田川の徳なりぬきぬき

用ひききききききききき

胡蝶 小の字をいふは

氷のひひひひひひひひひ

徳乃乃 雲の平乃小徳の雲

のむけく又平乃の雲のむけく

む同季より徳のむけく

む同季より徳のむけく

徳 居るなり

の只二名なり三徳の元三徳の徳

えひひふふふふふふふ

徳 徳なり元三徳なり

のうらふふふふふふふ

らぬ徳のいふなり

ふひひふふふふふふふ

徳 徳なり元三徳なり

乃居ふむらりとは徳なり

て

天子 徳なり人徳の徳

天皇 徳なり徳なり

天狗 徳なり徳なり

天の字をいふは徳なり

天子 徳なり三徳なり

天子 徳なり三徳なり

天子 徳なり三徳なり

天子 徳なり三徳なり

天子 徳なり三徳なり

天子 徳なり三徳なり





各所の天の川はあなご

天の川のおおせふどひびくも  
地あき秋の夜ふも三句

岡依ひまふ秋の夜ふも三句

あつま二あつまのひびくも三句

あつまの海をよこ回れ海をよこ

各所よ三句

あつまあつまの神祇のあつまあつ

東七句

あつまあつまの各所付くあつまあつ

傘二あつまの各所よ三句

女踏新

あつま山を越えよひくも三句

お坂山を越えよひくも三句

撰よあつま三句

船の字三句 船あつま三句

傘二あつまのけさ一早且の各所

と船とあつまのあつまあつま

船あつまのあつま

船の月一と船の月又三句

三のうらもも晩のあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

漢語よ三句

船の字三句 傘二あつま三句

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

あつまのあつまのあつまのあつま

のぢれさしめり付り斗ふは

赤松小丸のまやちをば余のまよ

初之赤松赤うげのれさしめり

わぢれよみどり二百さしめ

赤のまよと 赤のまよ又い

赤丹赤と云何まよの言も二百

赤二赤系丹朱とも二百

わくさたりとら 西と居

秋風一秋小丸はひまびとく又二余に

二まよ一秋の風くともさるる

秋の系の色も木の系も二百

はれまよと古松よまよとわぢ

ふと二百さしめ

芋一わく火一芋鴨一わくや二百さしめ

ちと居余二芋乃まよ内なる

とちりまよと一赤赤のちりや

四門の外にわくまよ

わの極後 秋

芋やわく火大にまよさるるわぢ

何鴨 赤まよと人わくは

何やわくまよとちのまよと

まよと二百

何やわく枕 秋とく人わ

温よ乃とまよと二百

わのまよと二百

赤まよと赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

赤二赤系丹朱とも二百

秋の田舎 麻とびまびてもう入地はほど  
麻とびとびとくつらう地は二白じ  
秋をたやまじしむら秋はひらひら  
あまをわびて秋のまじしむら  
二たうりもろく

秋の秋がたにんちり白地りあふ  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら

あまをわびて秋のまじしむら  
あまをわびて秋のまじしむら



猪一めんこう一まら申がめん  
らうとの猪のうらにまぐーかめん  
申の年申の時おれ日又かへ  
まめとさうらひのまめめめめめ  
ゆらま二申らるる

又月面一梅の面二又又月の面らう  
月面のわめらうがらう二二のうが  
茶ふらうそよ一茶二の面二又月  
二つらばりゆ海上下のわめらり  
てあらる

まひら二地まび神まびおのら  
二二二二二二二二二二二二二二  
また三乃おまびの二二二二二二  
つまのの二つ二二二二二二二二  
又佐治席莫因拜お二二二二二二  
くわまび二二二二二二二二二二

一あがら二二二二二二二二二二  
いづま二二二二二二二二二二二  
えい二二二二二二二二二二二二  
かひ二二二二二二二二二二二二

藤三白あ二二二二二二二二二二  
されまされ林され二二二二二二  
らうら二二二二二二二二二二二  
中二二二二二二二二二二二二二  
ハ林おれ二二二二二二二二二二  
乃二二二二二二二二二二二二



猪軍云の山月并 山おる名にれど  
起請 林林あり  
行人 尺者二世二あひ西派地  
さうら 只二

片只二名二二二二二二二二二二  
一合二二二二二二二二二二二二  
二二二二二二二二二二二二二二  
二二二二二二二二二二二二二二  
二二二二二二二二二二二二二二  
二二二二二二二二二二二二二二  
二二二二二二二二二二二二二二

本と本らうかりり二一方らふの







ゆふとく人非紙しあまし

言ハし他を物乃書ハし白濁の因由

更らうりかきとて書物と月め書

花の書ゆれれたる年ニ書ハし二

口門と書ゆくまど一書物のを

初書も交し方書おとていふ

書ハみぞれわれわれと書ハし

書ハれたる地おほくはりの地

夕乃字ハ夕夕又ニ夕夕ニ夕の夕

又ら一せれと書ふらとてまど一

夕夕ニ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕ハ夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

芳ふりてとて下りぬるをたね  
らよゆげの矢たれにわら

ゆげに文二句短

な 秋ふれどととに秋ふれ

美意こみ白きとまう秋ふれぬド

ふくは意よかりごと

愛らり 秋ふれどととに秋ふれ

はまらり白かりたうくの洞合てら

つふひれれと秋ふれぬと

美らりかねがめさしちかめどつれぬ

二句短

い友の世 秋ふれどととに秋ふれ

といふ白祈まり 秋ふれぬと

美らり 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

ゆめく 秋ふれぬと

み

帝 丙の子ニ百八門ハ七句極

執 邪子ニ本名ニ本名ニ本名ニ

邪子ニ邪七句ニ

正幸ニ行乃まニ百ニ

正後 本名ニ本名ニ

己の日の後 本名ニ本名ニ

己乃年ハ本名ニ本名ニ

み乃本 本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

本名ニ本名ニ本名ニ

行只一船而三みさふあふ二百と

傘二行二魚一

初只一法の初又一みさふ一傘

此と存の久相と云流るる

おとの存に知る物おれ先をよ

付てとらうか初おれ

乃乃字に三句まこ

るに玉やこらまこつら物何と

二句ほおあなを山落の二句

雲二宮七句短あハ三句一傘

進はあせ并のこくみさふ

とゆへい流あおあどのうらに

物に三句いあハせり物おれ

みざれ酒あり物三句季と何な

雲二宮二句短傘二句不登付て

くうかきとあは目あは人ふ

むとさう物い雲ハおれとさふ

物おまけぬあ付てと

小児とみざりまるととあふ

さふとみざりと云ハ各別

力ありてと云何は後あ

三十字年ノ字三句

岸二宮短七句短尾上を山し又

同ノ傘雲二宮短あハのハ西と

も二句短同七句とと

みあ二宮んと云と又二

まはし二一人傷傘二云とて

二ノ短二短と短一宮の短一

但後二短ととびて又二

あたらうあはらあを

耳みくらあはらあを

箱の足とくあはらあを

耳二宮と二宮と

見あふ同七句と





烏藤刀 烏藤皮 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

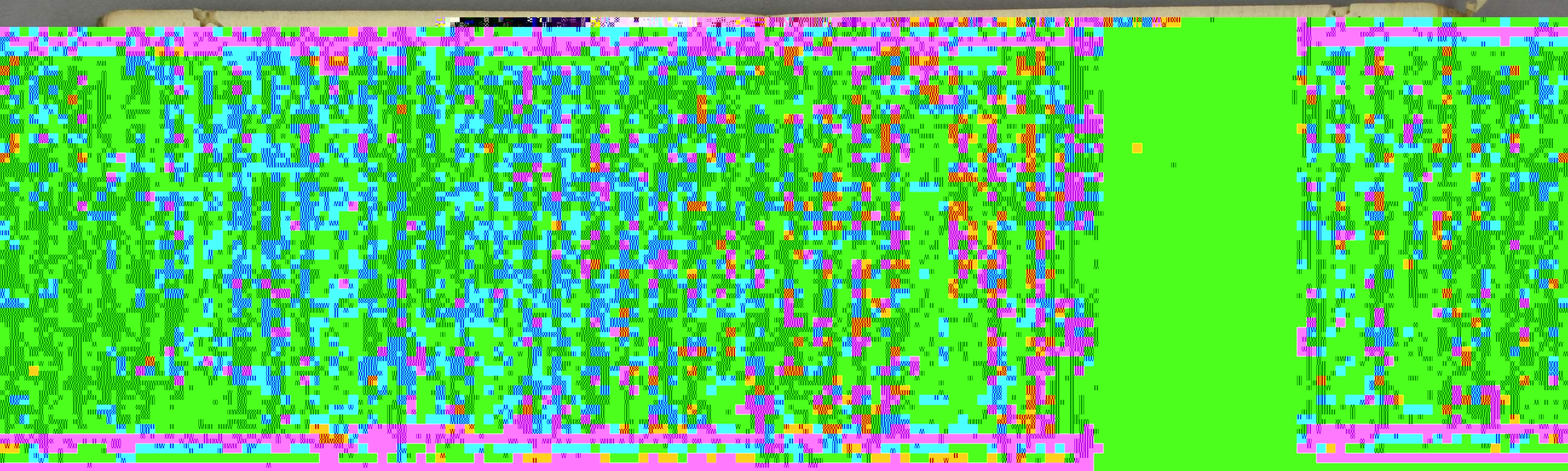
久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物

久物 久物 久物 久物





日一月の月日... 長月月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

日一月の月日... 日一月の月日...

四一の考すのそとてふべし流りて火  
いふのかし焼の形式ふ一座三白の  
別みちとそを抄よ火口乃内等と  
るに流りて又乃火と焼の七白を  
火小形二白焼々ありも二白  
松原只一松垣又ふべし傘よ  
松乃名二の外多ふ

人の名わしやまの原子よのせ  
ちんひあふとくはくひ舞ふ他  
入らやとれ人の用へたるの各  
と名をらんありたる代の家同  
名字のそふべ

一葉の船 松し 傘三葉乃  
舟のし様にあふべ  
火焼屋 林檎あり  
屏風 色二白焼

氷室ニラス いろはの杉と屋  
宮の七白焼傘ニ夏はあふと氷に  
色つしあふひやうと春はらと

白梅と入おとふとふとふと  
七月より九月まで秋はら  
おれは六月一日とわんらうと用は  
なると氷のそめい氷室と杉  
也え月小ふとふとひひの雪も  
ひくと引 木弓琴牛茶う  
乃とくかかれの房二白

雛乃わそび 生れ小ふ焼ひか  
ひのあふとふと雛も同字も  
二ひのあふひかの焼若形も二白  
ひらふひのあふとふと生れ若  
は二白焼推地らふとはは  
白梅あふとふとふとふと

ひやう二 秋と傘と秋秋ひ  
ひやくとふと同字あり秋  
ひえ飯 ひや酒雑

火をとりとてとふとふと  
百九字二あり









ひかりのたけのたけをたけうよのたけひひり  
あまのたけ

植まへる人ものたけをたけうよのたけひひり  
たけ

花のたけのたけをたけうよのたけひひり  
たけ

一和花  
たけ

二系花  
たけ

三系花  
たけ

河のたけ  
たけ

二季のたけ  
たけ

三季のたけ  
たけ

山花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

花のたけ  
たけ

庭古草

橘

橘は昔の庭を葉はつたが今もあつた

秋の草

冬草

あつた秋の草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草

あつた草はあつた冬草もあつた

あつた草

冬草



凡五之草 存

之草也 俗名 人曰 草 夕 草 名 國 草 類

幼兒草 菘

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

存 凡五之草 曰

之草也 俗名 草 名 國 草 類

ひまわり月夜はあまのついでとて夜を  
かきつゝつかりのあやうあり

緑や山おのつゆふひのむらじりあふり  
親子を子もついでとてあまのついで

六花 音

冬鳥はついであまのついでとて神を言はれり  
難くはた刀心音 心

音心音 心

花月おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

朝心音おのつゆふひのむらじりあふり  
朝心音 心

とさしだもるささどはめ目  
の面紙ささし自紙さあしく  
されおあ人

一書想乃御指しん夏とらふ字を  
ささし古来乃徳人なり帝は門  
さふさやこ戸ふよさし希しよ  
らんさくさささあのだごいささあ  
らんり伴物よるむすれ鞆さな  
ささし西紙ささしあ紙紙ささし  
ゆり七のささしあ紙紙ささし  
さありおあかりてささし乃紙も  
さあり一産ふさの紙りさり  
ひさのささし乃紙りさあおささて  
ささし七の乃紙りささし三のさ  
ゆり一の乃紙りささしあ紙紙  
将をあるささしさあり紙りささ  
らさくささし

元禄甲子辛未仲春吉日

氏江 書林 酒原茂盛坊板行

七五五五ト

